

ポブベっくのやさしい投資信託

第7回 投資信託のコスト

今回は、投資信託を購入する際にかかるコストについて解説します。投資信託を購入する時に、直接差し引かれる手数料は、販売手数料、信託報酬、信託財産留保金、の3つです。誰がどのくらいその手数料を受け取るのか、まとめてみましょう。

(4)投資信託にかかるコスト

販売手数料

(a)販売手数料を受け取るのは...投資信託を販売する際には、リスクをお客様に理解して頂かなければなりません。野菜や果物のようにお店の店頭と並べておけば売れるというものではないのです。そしてお客様に時間をかけてリスクを説明して販売したことに対する報酬が、販売手数料なのです。つまり販売手数料は、投資信託を販売した会社が受け取るものなのです。

(b)販売手数料はどのくらい支払われるの?...多くの投資信託は、購入時に購入価額の2~3%が販売手数料として支払われるようになっています。銀行預金が1%にも満たない現状で2%や3%の手数料というのはとても高いと仰るお客様が多いかもしれません。確かに2%の販売手数料を支払い一年後に売却したとするならば、年率2%。ちょっと高いかなと思います。しかし、販売手数料は購入時に支払われるだけです。購入した投資信託を5年間保有したとするならば、2%の販売手数料は1年当り0.4%となります。10年間投資信託を保有したとすると、2%の販売手数料は1年当り0.2%にしかありません。このことから、投資信託は頻繁に売買するものではないということが分るのではないのでしょうか。

(c)販売手数料の例外...販売手数料がかからない投資信託もあります。販売手数料のことを英語でロード(load)ということから、販売手数料なしの投資信託をノーロード投資信託といいます。ただ、ノーロード投資信託といっても、次に説明する信託報酬を割

高に設定している場合があるので、「ノーロード投資信託はお徳」というわけではありません。あくまでも、全部の手数を合計した上で判断しましょう。また、MMFや中国ファンド等の債券型投資信託も販売手数料がかかりません。

信託報酬

(a)信託報酬を受け取るのは...投資信託を運営するにはコストがかかります。資産を運用するためだけではなく、基準価額を毎日計算するにもコストがかかりますし、半年に一度はお客様に運用報告書を作成して送付しなければなりません。また、分配金支払い時には、販売会社がお客様に対する窓口になります。そういった諸々のコストは全て信託報酬で賄っているのです。つまり信託報酬を受け取っているのは運用会社、販売会社、信託銀行の3社ということになります。どのような比率で分け合うかは受益証券説明書に書かれていますが、運用会社40%、販売会社40%、信託銀行20%の比率で分け合うことが多いようです。

(b)信託報酬は何時、どれくらい支払われるの?...信託報酬は株式型ですと年間1%前後に決められていることが多いですね。1%とすると、基準価額が10,000円なら1年間で100円、基準価額が12,000円になれば120円、基準価額が8,000円に値下がりすれば80円となります。実際には基準価額が毎日変動することから、日々基準価額の(1%÷365日)を基準価額から差し引いています。基準価額の水準によって変動するわけですから、成功報酬みたいなものだと思いますか？

信託財産留保金

(a)信託財産留保金って何?...お客様が投資信託を売却する際には、その資金を作り出すために、運用担当者は保有している株式や債券を売却しなければなりません。当然、株式や債券を売却する時には売買手数料がかかります。そこで、そのコストは、投資信託を売却するお客様に負担してもらおうというのが第一の趣旨。投資信託を長期で

保有していただくために、短期で売却するお客様からはペナルティをいただくというのが第二の趣旨です。

(b)信託財産留保金は誰がもらうの?...(a)で述べたように、信託財産留保金は「報酬」ではなく、投資信託を長期保有しようとするお客様を守るためのものです。ですから、信託財産留保金は販売会社や投資信託の運用会社が受け取るのではなく、ファンドの保有者が受け取っているのです。